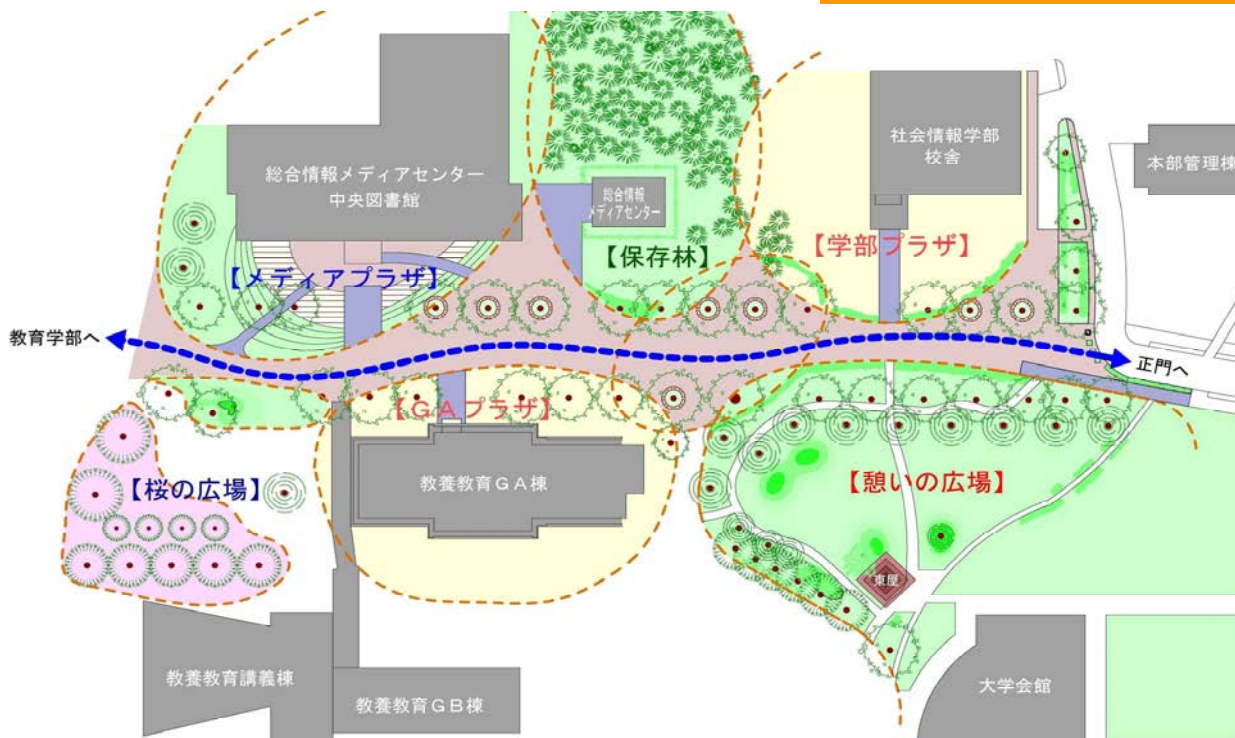


# 既設道路を改修し 学生中心のキャンパスを創る

群馬大学 荒牧キャンパス中央モール



整備後の配置図

## ◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

- 学生の視点からキャンパス環境の質的向上を図る
- 無味乾燥な道路を「交流」「憩い」「集う」潤いスペースに改修
- 歩車分離により安心して安全な往来が可能
- モールの整備と合わせてキャンパスの地域開放も実施

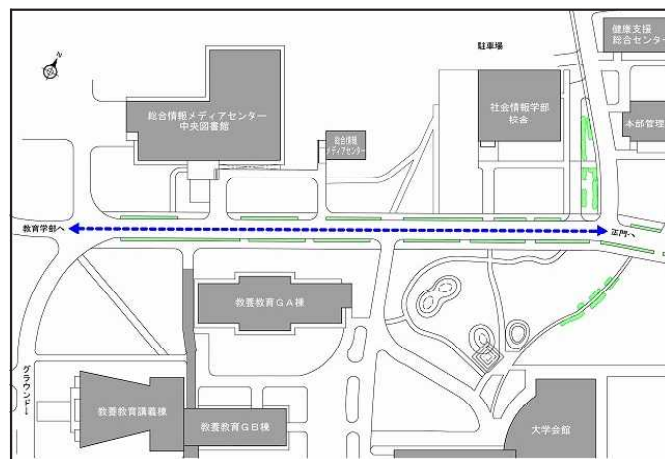


正門側から中央図書館（右手）と教養教育GA棟（左手）に囲まれる空間を見る

### ■計画設計のポイント

#### キャンパスの中央部の活性化

環境整備以前の本エリアは、正門から各建物への歩車混在の「通路」の状況であったが、キャンパス主要施設の大学会館、社会情報学部校舎、総合情報メディアセンター中央図書館、教養教育棟、教育学部校舎に囲まれる空間であることから、キャンパスの中央モールとして位置づけ、アスファルト舗装をイン



整備前の配置図

ターロッキングブロック舗装等に貼り替え、学生の歩行動線を重視するとともにモールを意識した周辺建物の整備（改修）により、各建物へのアプローチと広場が一体となるよう計画している。とりわけ、キャンパスの中心的役割を持つ中央図書館との接続には、ウッドデッキを整備し建物内外の中間的な空間を目指すとともに、開放的で利用しやすい間口の広い空間を創出した。





中央図書館外観



中央図書館ウッドデッキ

### 潤いのある外部空間

既存の木々の緑を生かすスペースに取り込んだ空間の拡大、ベンチを兼ねたツリーサークル等により、学生は空間を最大限に利用した広くゆったりとした動きに変わり、異なる学部間の交流も盛んになった。また、屋外照明設備についても、空間形成に配慮し、従来の背の高い外灯から、足下を明るくし広場を演出するガーデンライトとしてデザインした。



教育学部側からメディアプラザ方向を見る



社会情報学部横から中央モールを見る

### 地域の住民も利用する緑地空間

中央広場等の整備に併せて荒牧キャンパスの地域への開放も実施した。平成11年に整備した「憩いの広場」と一体となる中央モールは、地域交流のアプローチとしての役割も担うこととなった。



憩いの広場

### ■整備戦略

#### キャンパスマスタープランに位置づけ

キャンパスマスタープランの基本方針において、個性豊かで魅力あふれたキャンパス環境を実現する施設整備として、キャンパス環境の調和、個性化を図るとしていることから、荒牧キャンパスの緑地計画（広場等）において、中央モールを学生が憩う広場として位置づけ、計画的に実施することとした。

### 基本設計の実施

学内予算で、中央広場全体の基本設計を行い全体像を明確にし、学内関係者の認識の向上を図った。中央モールの整備は、周辺建物（中央図書館、教養教育棟）改修の予算等で段階的に整備した。

### ■利用の促進

#### ランチ移動販売車の誘致

平成25年度より、学生の利便性も考慮し、民間のランチ移動販売車をモール内に誘致している。このことにより、更に学生のためのコミュニティー空間として利用されるようになった。



#### 学園祭のメインスペース

中央モールは、毎年開催される学園祭（荒牧祭）のメインスペースとして利用され、多くの来場者でにぎわっている。



### 遊歩道の整備

本整備と連動して、団地外周の自然林内を活用した遊歩道を整備し、教職員はもとより、近隣住民など多くの利用者のセラピー効果や健康づくりにも貢献している。



遊歩道

### ■施設整備の効果

#### 利用者の大幅増

中央モールは、単に動線空間にとどまらず、潤いのある空間になったことから、利用者に好評である。特に図書館は、建物も開放的な施設に改修されたこともあり、改修後の利用者数が改修前に比べて、約1.5倍になるなど大幅に増加している。

H18～19年度平均：124,595人／年延べ

H21～24年度平均：185,640人／年延べ

### ■補足

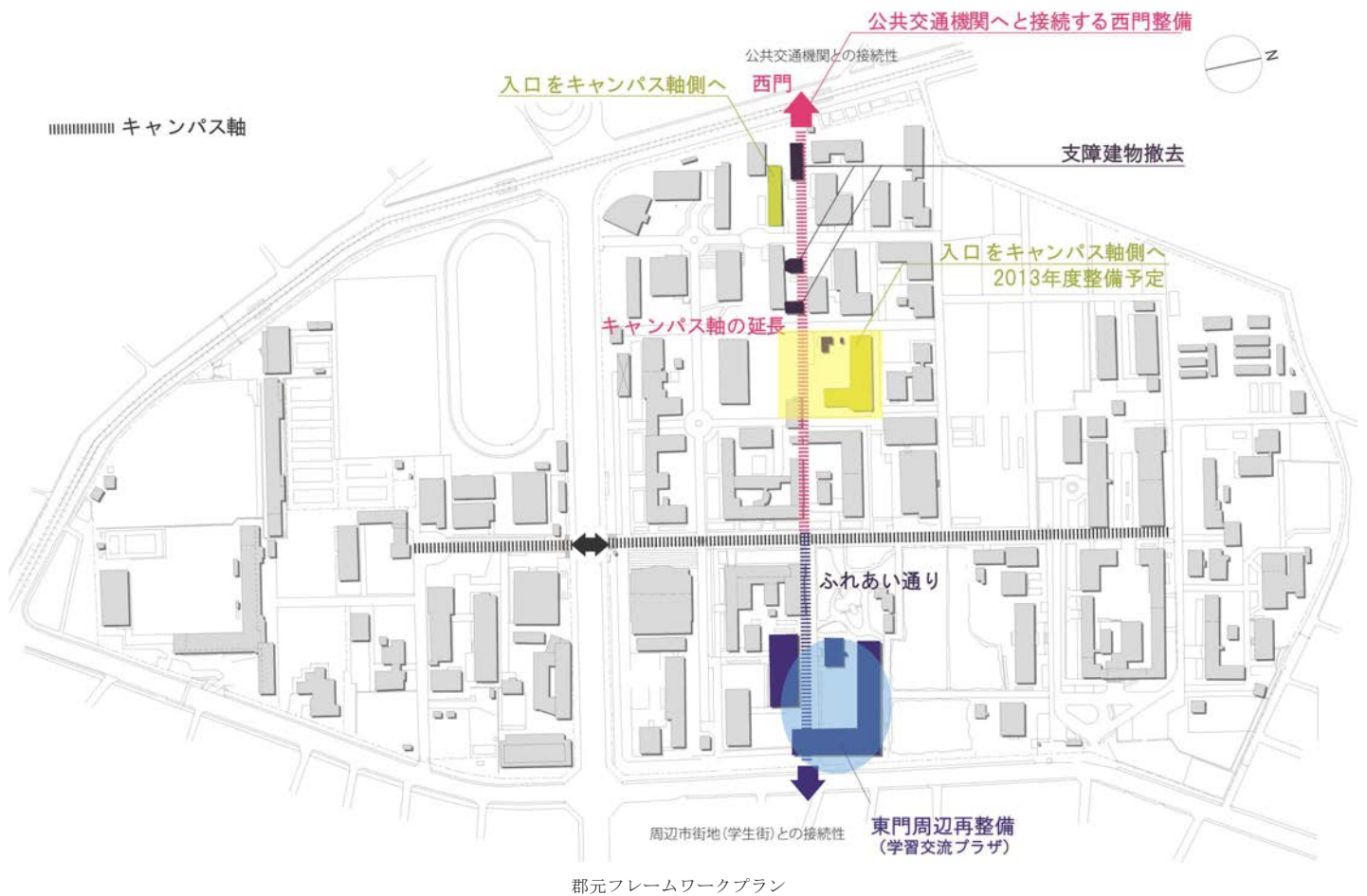
整備年度：平成18年度～平成21年度

基本設計：平成18年6月～平成18年7月



# 既設の通りを延長・拡充整備し 二つの門を結ぶキャンパスの骨格を創る

鹿児島大学 ふれあい通り



郡元フレームワークプラン

## ◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

- ふれあい通りを延長し、西門から東門まで人が主役となるキャンパスストリートを整備する
- 新たなキャンパスの骨格を形成し、中長期の将来にわたるキャンパス展開を促す
- 学生や教職員、地域社会との交流を促す

西門整備後



西門整備前



### ■計画設計のポイント

#### 連続性のあるキャンパスストリートを整備

西門から東門へ続くキャンパス空間の骨格を形成し、そのキャンパス軸を中心とした施設整備を展開することとした。そのため、建物の顔（主要出入口）のキャンパス軸側への変更やキャンパス軸上にある支障建物の撤去等を計画に進めている。

#### 歩行者主体の空間を整備

ふれあい通りを歩行者主体の空間として整備する計画とした。そのため、以下のような事柄を実施した。  
○中央に将来のシンボルツリーとして桜の木を植栽。  
○学祭等のイベントにもフレキシブルに利用できるように、脱着式ポールを採用。

支障建物撤去後



支障建物撤去前



整備後の西門



整備前の西門



○歩行者のたまり場として、道脇にベンチや花壇を設ける。  
○敷地外とのレベル差は緩やかな斜路でつなぎユニバーサルデザインに配慮する。



たまり場となるベンチと花壇

将来のシンボルツリー



### 公共交通機関と接続する

小さな通用口しかなく閉鎖的な境界面となっていた郡元キャンパス西側に、公共交通機関（鹿児島市街地の主要公共交通機関である路面電車）の停車駅からふれあい通りへ誘導する西門を整備し、学生はもとより受験生や学外者の利便性向上を図った。



西門前を走る路面電車

### ■整備戦略

#### フレームワークプラン2009

郡元フレームワークプラン2009において、新たなキャンパスの骨格形成としてふれあい通りの延長を明確に示すことで、目指すべきキャンパス像の共通認識を図った。

西門の整備において、門の形状やコンセプトは建築学科学生に提案を募り、学生のプレゼンテーション、学生・教職員との意見交換によりプランを決めた。

### ■利用の促進

#### 案内用のサインの設置



開かれたキャンパスとして、入り口に学外の方へ向けた案内用サインを設置し、利便性の向上を図った。

### ■施設整備の効果

#### 交流の生まれるキャンパス



整備後の東門

西門を新設するとともに、対になる東門を同時期にリノベーションし、新しい2つの大学の顔が整備されたことで、西門から東門へつながるキャンパス軸がより明確なものとなり、今後のキャンパス展開を促すこととなっている。また、キャンパス軸を西門まで延長することで、分散していた動線が集約化され、にぎわい・交流の生まれるキャンパスストリートとなった。

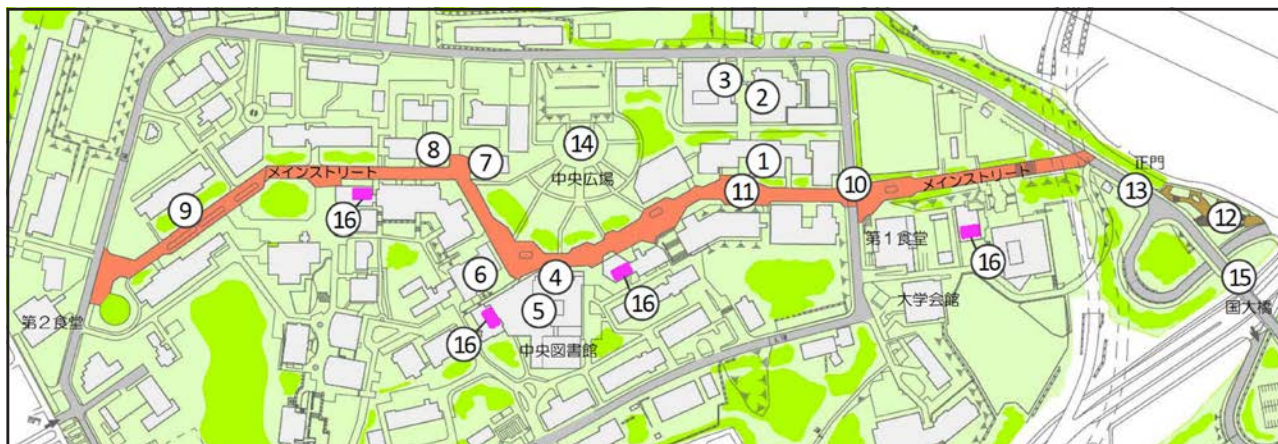
### ■補足

整備年度：平成22年度～



# メインストリートを軸にパブリックスペース等を整備し、キャンパスの活性化を図る

横浜国立大学 環境整備等



## ◆◆◆整備の目的・方向性◆◆◆

- 学生スペース等を計画的に整備し、教育研究の活性化を図る
- 学内・地域・社会との活発な交流・活動の支援, 安全・安心の確保を図る

### ■計画設計のポイント

東西に通り抜けたメインストリート沿いの建物に、学生スペース等のパブリックスペースの整備を段階的に進め、両端に福利施設、中央に図書館等を配置した交流ゾーンを形成し、キャンパス活動の活性化を図っている。

#### パブリックスペースの整備

##### ①経済・経営講義棟1号館

学生スペースを設置し、自学自習、共同学習の場を整備した。

##### ②③経営学部1号館・経済学部1号館

正面玄関がなく暗かった建物に吹き抜けのエントランスホールをつくり、明るく開放的な空間とするとともに、エントランスに接続される空間を国際ラウンジとして整備した。

##### ④⑤中央図書館

情報ラウンジを設置し学生の共同学習の場を充実させるとともにカフェを設置した。



経営学部1号館エントランスホール



中央図書館カフェ



経済・経営学部講義棟1号館

学生スペース



経済学部1号館国際ラウンジ



中央図書館情報ラウンジ

##### ⑥学生センター(旧理学実験棟)

学内に点在していた学務部, 保健管理センター, キャリアサ

ポートセンター, 学生相談室等を集約し学生へのワンストップサービスとするとともに, 学習活動・学生支援・学术交流の中心となるゾーンの形成を図るため, メインストリートの中央に位置し中央図書館, 中央広場と隣接している旧理学実験棟を学生センターとして整備した。



学生センター

##### ⑦建設工学科建築学棟

図書閲覧室では室用途に配慮し, 棚兼用の格子鋼板耐震壁による補強を実施。周辺環境と調和するよう外壁面を緑化し生きた教材としても活用できるよう整備した。



建設工学科建築学棟  
図書閲覧室

##### ⑧電子情報工学科棟

メインストリートに接続される建物外部にウッドデッキによるパーゴラを整備し人のたまり場を充実させた。また, 学生スペースを整備し自学自習, 共同学習の場を整備した。



電子情報工学科棟学生スペース

##### ⑨物質工学科化工・安工棟

メインストリートに接続される建物外部にウッドデッキによるパーゴラを整備し人のたまり場を充実させた。



物質工学科化工・安工棟パーゴラ

##### ⑩国際ラウンジ整備

留学生センター, 教育人間科学部講義棟6号館, 情報基盤センター別棟, 工学基礎研究棟に国際ラウンジを整備する計画である。



## メインストリートの整備

### ⑩歩行者空間等の整備

キャンパス中心部を東西に伸びるメインストリートは歩行者用に位置づけられているが、三本の車道により分断されていた。歩行者に優しいキャンパスづくりのため



メインストリート歩道

に車道により分断された歩道を接続し車道側をハンプとすることで車両に注意喚起、徐行を強制することとし、安全・安心を向上させた。また、第1食堂前階段を広げ、一部をウッドデッキで整備し人の居場所を確保した。

### ⑪インフォメーションキューブ整備

メインストリート地中には共同溝が整備されているため、メインストリートに換気塔が点在し景観上支障となっていた。この工作物を、機能を維持したままインフォメーションキューブ（情報発信基地）へ改修し、メインストリート



インフォメーション・キューブ

に一つの景観を形成するとともにキャンパス内の交流の場として整備した。

## 周辺環境整備

### ⑫アプローチ広場整備

正門への通路としての利用でしかなかった部分を、アプローチ広場として、ウッドデッキで人の居場所を所々に点在させ、開放性のある空間に整備した。



アプローチ広場

### ⑬正門周辺整備

学園紛争時代に構築した堅ろうな正門ゲートを、正門前のアプローチ広場と同様に大学構内へのアプローチとして開放的な空間に改善するとともに、人とバイクの動線を明確に分けることで安心・安全の確保を図った。また、分かりづらかった構内案内サインを更新し、来学者へのサービス向上を図った。



正門ゲート

### ⑭中央広場

災害時の広域避難場所としての機能を充実するとともに催物の実施等学生等が利用しやすくするため、広場中央の噴水部分を撤去し平場を広く確保した。



中央広場

### ⑮国大橋補強改修整備

国大橋は、建設から40年以上経過し、老朽化対策と地震時に落下しないようにするなどの安全面での対策も必要となっていた。そこで橋桁の支持部材の取替え、舗装の打替え、塗装の塗り替え等の改修を行うと同時に橋脚のコンクリートによる補強、地震時の橋桁落下防止構造の構築を行い、橋の安全性を高めた。



国大橋

## ■整備戦略

### 施設整備の基本方針

キャンパス施設整備計画の基本はキャンパス統合時に「保土ヶ谷統合計画」で示されており、それを踏襲しつつ「フレームワークプラン(2011)」にて土地利用計画、交通計画、屋外環境計画、インフラ計画などの基本方針を示すとともに、アクション



土地利用計画図（常盤台キャンパス フレームワークプラン(2011)より抜粋）

プランとして、具体的な整備計画を策定している。

## 多様な財源による基本方針の段階的実現

横浜国立大学の施設整備の基本方針「国大橋・正門前からキャンパス全体に広がるネットワークの構築として一定区間ごとに広場をつくり、キャンパス内のアクティビティを活性化させ同時に連携させていく」をコンセプトに、屋内・屋外空間をデザインし多様な財源により段階的に整備している。

## 全学的な取り組み

学長のリーダーシップのもとキャンパス委員会に「キャンパスの施設整備及び利用に係る基本計画の企画、立案、連絡調整及び情報収集等を行う」ため専門知識を有する教職員を中心としたキャンパス・デザイン計画室を平成19年度に設置した。

## デザインコンペの実施

60周年記念事業を契機としてメインストリート関連の整備財源の確保が可能となったことから、国大橋とその周辺のコンセプトデザインコンペ」を平成21年度に行い、在校生・卒業生・教職員の整備計画への参画を求め整備を実施した。

## ■利用の促進

### 生きた教材

国大橋の耐震補強事業では土木工学を専攻する学生等の見学会を開催し、生きた教材としての活用を図った。

### webアンケート

アプローチ広場等屋外環境の一連の整備が完了した時点で「常盤台キャンパスイメージアンケート」を大学HPにてWEB上で学生・教職員・地域の方・来学者等へ広くアンケートを実施し施設整備の参考としている。

## ■施設整備の効果

### 教育研究の活性化

メインストリートの中央に位置する図書館と講義棟群並びにパブリックスペース等が連動し、学部等を越えた教員や学生、留学生間の学術交流ゾーンが形成され、大学全体の教育研究が活性化された。

図書館は、ホール、メディアブース、カフェを併設し、隣接棟にPC教室を設置すること等により、学部が異なる学生の交流を伴った学術活動の中心となったが、さらに、キャリアサポートなど学生支援機能を整理集約することにより、各種手続等のワンストップサービスが実現された。

図書館の利用者数は、改修前は、30～40万人/年であったが、改修後は60万人/年に増加している。

### 国際化へ貢献

国際交流ラウンジの設置で、英語による留学生とのトークタイムの開催など、大学の国際化に貢献している。

## ■補足

整備年度：平成18年度～平成22年度